

令和4年
伊豆市議会 12月定例会

一 般 質 問

令和4年 12月

令和4年伊豆市議会12月定例会一般質問者と質問事項

12月1日(木) 午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
1	10. 間野 みどり	1 市民のための防災や避難所の見える化について	市 長	1
2	15. 永岡 康司	1 帰宅途中の子供の熱中症対策	教育長	3
		2 教職員のなり手不足		
		3 地域部活動移行について		
		4 伊豆総合高校土肥分校下宿運営事業の現状と今後の課題	市 長	4
		5 伊豆市中小企業等奨学金返還支援補助金制度について		
3	2. 浅田 藤二	1 新中学校の教育の内容(教育課程)について	市 長 教育長	5
4	8. 星谷 和馬	1 狩野川公園について	市 長 教育長	9
5	16. 杉山 誠	1 持続可能な観光への取り組み	市 長	11
		2 認知症の人と家族のより良い関係のための一体的支援		12
		3 高齢者の補聴器購入助成について		

12月2日(金) 午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
6	6. 下山 祥二	1 移住定住施策推進のさらなる強化を	市 長 教育長	13
		2 平和寺問題の経過説明と情報は住民と共有されているか	市 長	
		3 公共施設再配置計画見直しの課題とその対策は	市 長 教育長	14
7	5. 黒須 淳美	1 伊豆市の災害対応について(静岡市の台風15号被害を受けて)	市 長	15
		2 市内小中学校の児童・生徒とその保護者への学校における相談体制と教職員その他による支援チームとしての連携強化の推進	教育長	16
8	14. 三田 忠男	1 中伊豆地区の現状と課題の行政・議会・市民相互の共有化を図り協働しませんか	市 長 教育長	18
		2 災害時の各種派遣要請と受け入れ態勢は整備されていますか		19
9	12. 小長谷 順二	1 海洋プラスチック問題	市 長 教育長	20
		2 危険空き家対策	市 長	21
10	9. 鈴木 正人	1 子どもたちの「生きづらさ」に向き合うために	市 長 教育長	22
		2 大規模太陽光発電施設(メガソーラー)について	市 長	24

12月5日（月）午前9時30分～

発言 順序	議席番号. 氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
1 1	11. 波多野 靖明	1 修善寺ニュータウン地区について	市 長 教育長	25
1 2	7. 杉山 武司	1 市民サービス向上を目的の未来のまちづくり	市 長	28
		2 教員不足への対応について	教育長	30

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 11月 15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 10 議員名 間野 みどり

No. 1

発言の種別 (○で囲む) (一般質問)・質疑・反対討論・賛成討論・その他()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
市民のための防災や避難所の見える化について	<p>令和4年9月4日、地域で防災訓練が2年ぶりに行われました。私の地区では、いつものようにサイレンの合図と共に一時避難所に集まり、班ごと人数の確認、それから次の避難所の総合会館へ、いつものように並んで移動して避難しました。</p> <p>以前と違っていたのは、いつもはその後、地区別のもう一つの避難所の旧修善寺町役場跡の公園へ行き、炊き出し訓練、消火訓練、三角巾等での救命救急訓練等が、実施されなかった事くらいで、全くしくしくいつものように訓練できました。</p> <p>少し前になりますが、私がこども園勤務の頃のことを思い出してみます。</p> <p>こども園では、避難訓練の放送が入ると、子ども達は速やかに机の下や安全な場所へ行き、それぞれが頭等自分の身を守り、そして保育士の指示を守りながら集まり、その後戸外の避難場所で人数確認や安全確認して、地域の避難場所へ移動します。</p> <p>ここ数年、コロナ感染症の影響で、様々な防災訓練が中断していましたが、私達の住んでいるところでは、どの地域よりも素晴らしく訓練できているなど感じました。</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	<p>しかし、そんな中でも、暫くぶりの防災訓練で、市民の間には、新しい発見や疑問点もささやく声が聞こえました。また、広報伊豆8月号において、区民による区民のための防災対策というページもあり、「伊豆市向こう三軒両隣作戦」として周知する対策をしていることがありました。そして、第2次伊豆市総合計画においても安全・安心なまちづくりの推進をはかり、主な取り組みも上げ、市民のために取り組んでいることもわかります。</p> <p>その中、次のことについて質問致します。</p> <p>①地震や台風の時の避難所は必要不可欠です。その運営についてはどのように考えていますか。</p> <p>②避難場所に必要な備蓄品、物資等は、市の方ではどのように管理していますか。</p> <p>③先日の J アラートや火災時の対応はどのようになっていますか。</p> <p>④防災時の障害を持っている方への対応や配慮はどのようになっていますか。</p> <p>⑤一人暮らしの老人の方への対応や配慮はどのようになっていますか。</p>	

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 11月 15日

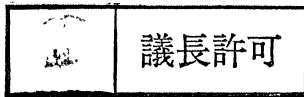
伊豆市議会議長 様

議席番号 15 議員名 永岡 康司

No. 1

発言の種別 (○で囲む)		一般質問・質疑・反対討論・賛成討論・その他 ()
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1. 帰宅途中の子供の熱中症対策	<p>大人の夏のアイテムの日傘を、小中高生も愛用する動きが広がっています、雨傘を日傘代わりに使う子も出てきているようです。</p> <p>国は熱中症対策で、体育の授業や運動部の活動、登下校時はマスクを外すよう促していますが。ある市内の小中学校校長は「マスク着用が習慣化し、外すことが『悪いこと』」と思い込んでいる児童もいる」と、“脱マスク”は簡単には進まないと訴える。<u>熱中症対策として帰宅途中の子供に対して、下校時の日傘差し問題をどの様に考えますか。</u></p>	教育長
2. 教職員のなり手不足	<p>少子高齢化が進み、子供の数が年々減っているのが現状です、学校の教員も不足している事がわかっていますが、子供が少なくなれば教員の数は少なくてもいいと思われているようですが、教員を希望する人の減少、教員の若年化による産休や育休などの休暇を取得する教員の多さなど複数の要因があると思われます。</p> <p><u>伊豆市の教育現場の現状と今後の教員の確保等の課題をどのように考えていますか伺います。</u></p>	教育長
3. 地域部活動移行について	<p>公立高の部活動に携わる教員の実態について調査したところ、土日の練習試合で生徒を引率した教員に交通費を支給していない自治体や、部活による時間外勤務を認</p>	教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
4. 伊豆総合高校土肥分校下宿運営事業の現状と今後の課題	<p>めていないのが実態です。法令では部活は教員の自発的な活動として整理されて静岡を含め 23 府県では不支給、残り 24 都道府県ではする仕組みがあると回答しています。</p> <p>生徒の安全を守る、部活は教育の一環として引率を出張とみなして支給する自治体もあるようです。</p> <p><u>伊豆市としての現状はいかがですか。</u></p> <p><u>今後、教員のなり手不足解消・労働条件の改善のためにも必要と思われませんか。</u></p> <p>伊豆総合高校土肥分校の下宿者への下宿費の補助や地域みらい留学による県外生徒の募集を行う、地域みらい留学をご検討の皆様ということで、9月24日の国立オリンピック記念青少年総合センターの対面説明会に土肥分校も参加しています。</p> <p><u>イベントの反応は どうでしたか？</u></p> <p><u>今後、留学生が増えた場合の資金の調達は？</u></p> <p><u>国や県に補助金の申請を行う予定はありますか？</u></p>	市長
5. 伊豆市中小企業等奨学金返還支援補助金制度について	<p>若い人材を確保するため従業員の奨学金返還支援を行う中小企業等を応援するため、就業規則または、賃金規則などで奨学金を返済している従業員に対して手当として金銭を支給している場合には補助の対象となると規定されています。</p> <p>補助額 従業員一人につき上限 12 万円となって、最長で8年間となり、申請条件としては市内在住で、市内に事業所に勤務している事となっています。制度ができて3年目を迎えますが、<u>現在の進捗状況と今後の方針、進め方について伺います。</u></p> <p><u>この制度、今後見直す考えはありませんか。</u></p>	市長



発言通告書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 11月 16日

伊豆市議会議長 様

議席番号 2 議員名 浅田 藤二

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()		
発言の要旨		答弁を 求める者
件名	内容	
新中学校の教育の内容(教育課程)について	<p>令和7年度(2025年)の伊豆市新中学校建設のための計画が進行していますが、最も大切な教育の内容、つまり教育課程の特色がいまだに見えてきていません。</p> <p>伊豆市の教育に『未来を想像する伊豆人(いずびと)づくり』がありましたが、様々なことに触れており、何に力を入れようとしているのか、どこに特色があるのかが私には読み取れませんでした。</p> <p>令和4年度の伊豆市の出生数は、70人代になると予想されているようです。まさに、緊急事態です。行政も同じですが、今までのような横並び・前例踏襲を続けていては、今回の質問の趣旨である持続可能な伊豆市とそれを支える人材づくりのための教育ができなくなってしまう。</p> <p>伊豆市は素晴らしい自然環境や特色ある産業、それを支える人材の宝庫です。地域が先生であり、現場がテキストだと考えています。今から、日本全国や世界から視察が絶えない新中学校の未来を想像しています。</p> <p>新中学校が出来る事は持続可能な伊豆市の将来を担う若者を育てる大きなチャンスだと考えますが、どのような教育内容を考えているのかをお聞きます。</p> <p>1 教育の内容(特色ある教育課程)について</p> <p>先行が不透明で、将来の予測が困難な変化の激しい「正解の見えない世界」の中で生きていかなければならない現在の</p>	市長 教育長

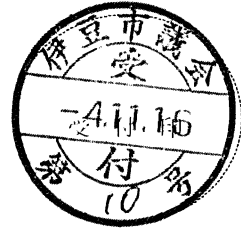
件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>小中学生にとって必要な学びは、今までのような知識偏重・偏差値重視の学力観に基づいた教育では対応できないことは明らかです。</p> <p>そのため新学習指導要領にも、これからの教育では「持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる」と明記されています。また、中央教育審議会の答申にも「持続可能な開発のための教育(ESD)は、次期学習指導要領改訂の全体において基盤となる理念であると言える」と書かれ、「ESDの視点からの教科横断的な学習を一層充実していくにあたり、総合的な学習の時間が中心的な役割を果たしていくことが期待される。」と書かれています。</p> <p><u>新中学校の教育課程の編成にあたってこの点をどのように生かし、新時代にふさわしい特色ある学校にしていこうと考えているか、お伺いいたします。</u></p> <p>2 世界の教育変革の流れ</p> <p>将来の見通しが不安定で不確実、複雑で曖昧な正解のわからない時代に対応する教育を行うために、今までの知識偏重の教育から脱却して新しい教育を行おうとする教育変革の波が世界中で起きています。その変革の波は、日本でも起き始め、様々な試みが主に私立学校で行われています。</p> <p>シュタイナー教育、イエナプランの教育、アメリカのHigh T ECH High、デンマークのホルケホイスコーレなどが代表的なものです。いずれも一方的に知識を詰め込む教育から子どもの個性を活かし、互いの多様性を認め合い、互いに補いながら、主体性・想像力・判断力・問題解決能力を育てようとする試みで実践する学校がある自治体には、教育移住者が増えています。</p> <p>また、日本の労働人口の約半分にあたる職業が10年後、20年後には人工知能やロボットに代替可能になると野村総研やオックスフォード大学がデータに基づき研究発表しています。</p>	

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>つまり、決められたことを決められたように実行する正解がある仕事は人工知能やロボットに任せる世界が見えてきています。そこでは、創造性・協調性が必要な職業のみが残っていくと考えられるため、主体性や想像力を育成し、自ら判断し主体的に問題解決できる若者を育てようとする試みが世界中で行われています。</p> <p><u>中学校を新設するからには、このような新しい波に乗った革新的な教育をおこなっていかないと新時代に対応した若者は育てられないと考えます。見解をお伺いします。</u></p> <p>3 天城中学校の事例とこれから具体的に取り組むこと</p> <p>教育課程をESDの考え方で構成した実践例がある天城中学校は、私(浅田)がPTA会長を務めていた時からユネスコスクールに加盟しESDに取り組み始めています。</p> <p>当時、静岡県で初のユネスコスクールとなり、その取り組みはユネスコスクールの全国大会で認められ、全国初の「ESD大賞中学校賞」を授賞した実績もあります。</p> <p>昨年その実践をまとめた本が出版されましたが、その中で語られていることは、ESDの考え方で学校教育全体を見直し、各教科・道徳・特別活動のすべてを「総合的な学習の時間」と関連づける事と地域での体験学習を行うことで、生徒が自尊心(自己肯定感)を高め主体的に行動するようになり、ふるさと天城に誇りと愛着をもつようになったと書かれています。更に、卒業後地域に残って地域のために役立ちたいと考える生徒が増加し、「持続可能な地域の担い手」が育っている事が確かめられています。</p> <p>以上のことから、新中学校の教育の内容について要望を交え質問いたします。</p> <p>天城中学校の事例をふまえ、新中学校では、ユネスコスクールに加盟しESDを柱とした教育を実施して欲しいのですが</p>	

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>そのためには、<u>新学習指導要領でも強調されている、地域に開かれた教育課程の編成のための学校と地域との連携の枠組み、システムを急ぎ設置されることを提案いたします。</u></p> <p><u>その場合、次のような実践的テーマを取り上げ、建設的な議論が行われることを期待します。</u></p> <p>① <u>伊豆市の持続・発展に資するESDを柱とした教育課程の編成・実施。</u></p> <p>② <u>新中学校に合わせて各小学校でもESDを柱にした教育に転換し、小中一貫した内容にするための検討委員会の設置。あわせて、このような新しい教育を行うための様々な地域人材の活用とそのため予算措置の検討。</u></p> <p>③ <u>伊豆半島は世界ジオパークに認定されており、ジオパークとESDは非常に親和性が高い(相性が良い)ので世界ジオパークの中にある学校として、教育の中にジオパークを活用した教育を導入していく方法。</u></p> <p>④ <u>伊豆市の恵まれた自然を活用した環境教育と地産・地消を原則とした食育に力を入れていただきたい。</u></p>	

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和4年11月16日

伊豆市議会議長 様

議席番号 8 議員名 星谷和馬

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・質疑・反対討論・賛成討論・その他()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
狩野川公園について	<p>昭和33年9月26日の狩野川台風で最も被害の激しかった旧修善寺町熊坂に記念塔を中心とした狩野川台風災害復興記念公園が設置され、昭和37年3月に工事を完成させた。</p> <p>記念塔は「災害にもめげず力強く立ち上がる」意を表していましたが、老朽化により撤去され、今はありません。</p> <p>敷地面積は、20,632平方メートル(1,000平方メートルは熊坂より寄附、残りは県が購入)、エリアは記念塔、運動場、休憩場、駐車場、児童公園から成り立っている。</p> <p>今日、車社会においては伊豆市の表玄関であります。数多くの観光客が休憩等に利用しています。また、運動場は市民を中心にスポーツの場を提供し、健康増進に役立っています。更に、児童公園はニューファミリー層を中心に楽しく遊んで、大変微笑ましい光景です。</p> <p>しかし、完成から60年、老朽化により危険個所がいくつか点在しています。お子様の目線で改善する必要があります。以下について質問します。</p> <p>①記念塔の周辺は荒れている。利用者は少ないが整備する予定は。</p> <p>②駐車場が狭い。拡張する予定は。</p> <p>③児童公園は危険個所が多く有ります。対策は。</p> <p>④トイレが古い。改修工事予定は。以上の改修工事等にはどの位の予算が必要ですか。</p>	市長 教育長

件名	内容	答弁を 求める者
	⑤指定管理料は毎年ほぼ同じ金額ですが、営業努力により値下げは可能ではありませんか。指導していますか。	

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 11月 16日

伊豆市議会議長 様

議席番号 16 議員名 杉 山 誠

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1.持続可能な観光への取り組み	<p>観光業は宿泊や飲食、小売り、交通にとどまらず、その周辺産業を巻き込んだすそ野の広い産業です。</p> <p>2000年以降のインバウンドの急増で経済的メリットを享受した一方、交通渋滞や環境への負荷、ごみやマナーの問題など負の側面も表面化し、2015年のSDGs採択以降、旅行先の環境、文化や地域社会への影響に配慮したサステナブル・ツーリズム（持続可能な観光）が注目されるようになりました。</p> <p>近年、企業や自治体においてSDGsへの取り組みが加速していますが、国連世界観光機関（UNWTO）は、「全ての目標（SDGsで2030年までに達成を目指す17の目標）に対して、観光は直接的、または間接的に貢献する力があり、持続可能な開発目標の達成に向けて、重要な役割を担っている」旨、宣言しており、自治体においても持続可能な観光への取り組みが求められています。</p> <p>観光庁では「日本版持続可能な観光ガイドライン」を発行し、自治体やDMO等の取り組みを促していますが、当市の対応はいかがでしょうか。</p> <p>また、少人数・高単価で感染症リスクが低い観光形態「アドベンチャートラベル」の人气が欧米を中心に広がり、日本でもポストコロナの旅行形態として機運の高まりを見せています。</p> <p>アドベンチャートラベルとは、自然とのふれあい、文化交流、身体活動のうち2つ以上の要素を持つ旅行で、その土地ならではのユニークな体験、自己変革、健康、挑戦、文化や自然に対して負担をかけないといった体験価値を提唱し、サステナビリティ（持続可能性）や旅行を通じた地域貢献を重要視する層からも支持されており、自然や文化の多様性に富んだ日本は魅力的とされています。当市でも取り組みを進めてはいかがでしょうか。</p>	市長

件名	内容	答弁を求める者
2.認知症の人と家族のより良い関係のための一体的支援	<p>2025年には65歳以上の5人に1人になるとされる認知症。当事者とその家族がより良い関係性で在宅生活を送れるよう、厚生労働省は今年度から、両者がともに活動・交流する場を地域に設けて一体的に支援する自治体への補助を行っています。</p> <p>この事業は、各自治体で関係機関との連携や相談業務を担う認知症地域支援推進員が企画・調整を行い、認知症カフェや地域包括支援センターなどを活用して、月1、2回程度、本人と家族を1組として2組以上で実施するものです。</p> <p>活動内容は、本人同士の語り合いや、家族同士と専門家などとの語り合いによる心理的支援や情報提供のほか、運動やゲーム、音楽など幅広いものが想定され、一人では味わえない刺激的な日々や新しい気付き、気分転換などが得られることが期待されます。認知症の人と家族の一体的支援について、当市の取り組みはいかがでしょうか。</p>	市長
3.高齢者の補聴器購入助成について	<p>補聴器は、加齢性の難聴に悩む高齢者の「聞こえ」を補い、日常生活を支えるツールとして大きな役割を果たしますが、軽度・中等度の場合、高価な購入費への支援がないために使用をためらう人も多くいます。</p> <p>男性の場合、70歳代では5～6人に1人が日常生活に支障をきたすほどの難聴を抱えているとされ、そのままにしておくと、会話や社会的交流が減少し、うつや無気力、認知機能の低下につながると言われてしています。</p> <p>70歳代ではまだまだ元気な人も大勢います。難聴による孤立化が進めば地域社会にとっても大きな損失です。高齢者の補聴器購入助成を検討してはいかがでしょうか。</p>	市長

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和4年11月15日

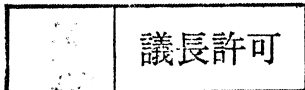
伊豆市議会議長 様

議席番号 6番 議員名 下山 祥二

No 1

発言の種別 (○で囲む)		答 弁 を 求 め る 者
○一般質問・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()		
発 言 の 要 旨		
件 名	内 容	
1. 移住定住施策推進のさらなる強化を	<p>令和4年11月5日の静岡新聞の朝刊に10月1日現在の県内各自治体の推計人口の公表記事が掲載されました。伊豆市は社会動態が35人増、転入は転出を上り前月比8人増で単月ではありますが吉田町と並び県内トップでした。この結果を踏まえ移住定住施策の現状とさらに移住定住施策の推進を図るべきと考え、以下の質問をします。</p> <p>① 現在の社会情勢を鑑み伊豆市の移住定住施策の現状とその成果はどのように評価しているか伺います。</p> <p>② 子育て世代の移住定住希望者の判断基準は医療体制の充実と教育の質の高さが大きな判断基準になると思います。移住者受入れの観点から医療体制の充実と教育の充実は十分に整っていると捉えているか伺います。</p> <p>③ 定年退職された方々が伊豆市への移住定住を希望するニーズはどのように捉えているか伺います。</p> <p>④ 移住定住施策で新たに考えている施策はありますか。</p>	市長 教育長
2. 平和寺問題の経過説明と情報は住民と共有されているか	<p>平和寺本山の敷地内から廃棄物を含んだ土砂が市有地へさらに柿木川へ流失した土砂災害が明るみになったのは令和2年6月です。その後伊豆市は令和3年2月に平和寺関係者を提訴、静岡県は令和3年9月に土砂の全量撤去の措置命令を発出しました。ところがその措置完了期限とした令和4年3月末を8ヶ月経過した今も廃棄物を含んだ土砂は平和寺敷地内に残存しています。その後の経過説明と情報が乏しく住民の不安は募るばかりです。</p>	市長

	内 容	答 弁 を 求 め る 者
<p>3. 公共施設再配置 計画見直しの課題 とその対策は</p>	<p>そこで6月定例会の一般質問に続き質問いたします。</p> <p>① 市民が一丸となって強い気持ちをもって解決にあたるには現状の動向や対策について、プランクを作らず常に情報共有し一体となって対策を講じるべきであると考えますが如何ですか。</p> <p>② 廃棄物を含んだ土砂の完全撤去までは長い時間を要することは当初から想定済みです。それでも解決への道標がなければ、ややもするとこのまま幕引きとなるのではないかと大変危惧されます。全量撤去処理完了までの見込みはどのように考えているかお聞きします。</p> <p>伊豆市の未来（財政）を明るく豊かな暮らしにすべく過去から引きずる負の遺産は出来るだけ早期に解消すべきであることは市民の誰でも理解していることでしょう。しかしながら、公共施設再配置の見直しを進める中で、総論賛成・各論反対の意見や、個々の市民からは既得権を主張する大きな声が発せられることは当然の如く予想されます。行政の仕事は時として大変つらい対応が求められ、その仕事の厳しさも理解した上で、敢えて20年30年後の伊豆市の未来（財政）も明るく豊かなまちであることを願い質問をいたします。</p> <p>① 公共施設再配置計画の現状の進捗についてどのように自己評価しているか伺います。</p> <p>② 新中学校の開校予定は令和7年4月で、あと2年4ヶ月になりました。現段階で、修善寺・中伊豆・天城中学校の跡地利用については、どのように考えているか伺います。</p> <p>③ 公共施設の借地解消は、具体的にどのようなことがネックになっているかお聞きします。</p> <p>④ 計画策定から10年後の見直し期間である2030年度までは、どのように取組む予定なのか伺います。</p>	<p>市 長 教育長</p>



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 11月 16日

伊豆市議会議長 様

議席番号 5 議員名 黒須 淳美

No. 1

発言の種別 (○で囲む)		答 弁 を 求める者
一 般 質 問 ・ 質 疑 ・ 反 対 討 論 ・ 賛 成 討 論 ・ そ の 他 ()		
発 言 の 要 旨		
件 名	内 容	
1. 伊豆市の災害対応について (静岡市の台風15号被害を受けて)	<p>本年6月29日(水)生きいきプラザにて、「わたしの避難計画」作成というワークショップに参加する機会がありました。静岡県危機管理部、東部地域局の職員と伊豆市職員合同での開催で、これから起こりうる身の回りの災害リスクに備え「どのタイミング」で「どこに」避難するか、などについてハザードマップを使って確認するというような内容でした。</p> <p>因みにハザードマップで自宅の危険を確認したところ、低い確率ですが「大雨による0.5m~3mの浸水のおそれあり」という結果で、避難のタイミングや避難先についても知ることができ、もしもの時の心の備えができたことは安心にもつながりました。それから台風の時期を迎えた9月に、浜松市や静岡市を襲った台風15号は、予想進路では伊豆市も含まれていたこともありテレビの映像を伊豆市でも起こったかもしれない、との思いで見えていたものです。この台風では河川の増水による住宅への浸水や土砂崩れ、橋の一部崩落、そして大規模停電や断水などの爪痕を残し去って行きましたが、その後の残暑の中での復旧作業には被害にあわれた住民の方々のご苦勞が他人事ではないと感じ6月に参加したワークショップの重要性も実感したところです。</p> <p>災害の被害というと様々ですが、今回テレビなどで目に</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
<p>2. 市内小中学校の児童・生徒とその保護者への学校における相談体制と教職員その他による支援チームとしての連携強化の推進</p>	<p>した街中にあふれた災害ごみの状況は、被災後すぐに住民としても取り組まなければならない課題の一つと痛感しました。</p> <p>また議会では、この11月の改選で駿東伊豆消防組合議会の議員になったことから、これからの伊豆市の災害への取り組みについて住民のみなさんへの周知と確認の意味も含め次のことについて伺いたいと思います。</p> <p>(1)災害ごみについて</p> <p>① 台風15号での静岡市への伊豆市役所職員の災害派遣の経緯とその具体的な内容について</p> <p>② 来年1月に本格稼働を開始する新ごみ処理施設クリーンセンターいずの災害時の役割について</p> <p>③ 災害ごみになどについて伊豆市としての今後の課題、検討すべきことなど</p> <p>現在、日向地区で進められている新中学校工事について、3年後の2025年4月開校を目指し、コロナ禍の折ではありますが着々と進められているところです。</p> <p>また昨年6月に発足した「新中学校開校準備委員会」も、「新しい学校の在り方」や「校名、校章」そして「制服」などについて審議や調査を重ね、今年8月には制服が決まるなどソフト面の準備も大詰めに入ってきている感があります。私は2009年4月から2020年9月まで約11年5カ月の間、市内中学校で「心の教室相談員」として勤務した経験があります。中学校での「心の相談員」の役割としては、思春期真っ只中にある生徒さんたちが学校での生活を有意義に送れるよう時にアドバイスなどをするもありますが、主には寄り添い話に耳を傾けそしてじっくりと成長を見守る、そんな存在であるのではないかと考えます。そこで感じたこととして、複数の小学校から1つの中学校に集まりスタートする中学校生活について、小学校の6年間慣れ親しんだ環境</p>	<p>教育長</p>

件名	内容	答弁を 求める者
	<p>から大きく変化し、初めて顔を合わせる者同士の中、不安が期待を上回りそれが解消されないままやがて本来の自分を出せずに苦しむ生徒さんの姿が少なからずあることです。</p> <p>学校には教員を始め学校支援員、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど学習面だけでない生活全般にわたる児童生徒、そして保護者への支援体制が整っていると認識していますが、コロナ禍と共にあった3年間はこれまでとは違う変化も子どもたちに見られるのではないかと、またその場合今後どのような支援体制が検討できるか次の点について伺いたいと思います。</p> <p>① <u>新中学校開校への移行をスムーズにするために、中1ギャップなどの問題をどのように考えるか</u></p> <p>② <u>不登校、いじめ、摂食障害、ヤングケアラーなどコロナ禍を受け増えているという調査報告が県や文部科学省、厚生労働省などから出ているが伊豆市ではどのように捉えているか</u></p> <p>③ <u>3歳児健診以降に行政が関われない“エアポケット”があると聞かすが、伊豆市では就学前に5歳児健診を導入している。その効果をどのように考え活かしているか</u></p> <p>④ <u>小中学校における学習支援体制で、学校支援員を配置しているが、その役割と必要性について、どのように考えるか</u></p> <p>⑤ <u>学習支援教室を設置しているが、その役割と学校のつながりはどのようなものか。</u></p> <p>⑥ <u>「心の相談員」やスクールカウンセラーその他による相談体制の効果、あるいは問題点はどのようなことか</u></p> <p>⑦ <u>現在中学校に配置されている「心の教室相談員」が小学校にない理由と、今後配置して児童の支援につなげていく意向があるか。</u></p>	

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年11月16日

伊豆市議会議長 青木 靖 様

議席番号 14 議員名 三田 忠男

No. 1

発言の種別 (○で囲む)		一般質問・質疑・反対討論・賛成討論・その他()
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1. 中伊豆地区の現状と課題の行政・議会・市民相互の共有化を図り協働しませんか	<p>中伊豆地区の現状と課題について、行政・議会・市民相互の認識を共有化し、地域の活性化を図り、住み続けたい地域の開発のため、以下の項目の進捗状況と今後の課題を伺います。</p> <p>①中伊豆温泉病院の建設が進んでいる清水地区を中心として、西区・上和田区・ニューライフ区の今後の地域開発計画の具体案はありますか</p> <p>②小川区の温泉病院跡地活用策や旧橋保育園跡地活用、さらに住民交流センターの取組みについて伺います。</p> <p>③中学校再編後の中伊豆地区のこども園・小学校の在り方、旧さくらこども園跡地や八幡を中心とした中地区の再開発等についての取組み状況。</p> <p>④萬城の滝周辺開発、わさびの郷構想、旧八岳小学校の跡地活用、公共交通機関の再編等の八岳地区の現状と課題について伺います。</p> <p>⑤伊豆スカイラインゴルフ場太陽光発電事業の環境アセスメント、送電線等の開発行為等の事業者の動きと、各種関係者の動向の把握と行政対応について伺います。</p> <p>⑥冷川地区の県道拡幅工事やセブンイレブンの動向と行政対応について伺います。</p> <p>⑦中伊豆地区の公園整備、とりわけ六仙の里公園の現状の実態と改善策さらに将来構想について伺います。</p>	市長 教育長

件名		答弁を 求める者
<p>2. 災害時の各種派遣要請と受け入れ態勢は整備されていますか</p>	<p>先の熱海市や静岡市清水区を中心とした災害は、伊豆市も例外でなく、いつ被災するかもしれません。その際、県内各地や全国から応援に来る、行政、社協、自衛隊、消防、警察各関係者、そして災害ボランティアの方々の受入体制について、以下伺います。</p> <p>①各種団体の派遣要請の判断基準について伺います。</p> <p>②各種団体の受入の指揮は、だれが執るのか各種団体ごとに伺います。</p> <p>③応援団体等の宿舎等の確保は整備されていますか</p> <p>④災害時必要備品の整備は十分ですか</p> <p>⑤市民への周知方法は整備されていますか</p> <p>⑥災害ごみの置き場の確保は整備されていますか</p> <p>⑦台風 15 号災害への伊豆市職員の派遣実態と派遣された職員からの報告で参考になった知見はありましたか</p> <p>⑧教育施設への災害時避難民受け入れの整備は、学校教育に支障の無いように整備されていますか</p> <p>⑨中学生等の生徒の災害ボランティアへの係わりについて、教育現場としての対応は決めてありますか</p>	<p>市長 教育長</p>

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和4年11月15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 12 議員名 小長谷順二

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()	
発 言 の 要 旨	
件 名	内 容
1. 海洋プラスチック問題	<p> 昨今、プラスチックごみによる海洋汚染が世界的な問題となっています。プラスチックは自然界ではほとんど分解されず、海に流れ込むと海流に乗ってどこまでも拡散し、最も深いとされている深さ1万メートルのマリアナ海溝においてもプラスチックが発見されたことが話題になりました。 </p> <p> プラスチックは海を漂う中で、発がん性や突然変異を引き起こすとされる化学物質や、鉛などの重金属などの有害物質を吸着します。それらを魚やプランクトンが食べ、そしてそれを餌とする更に大きな海洋生物は更に多くのプラスチックを体に取り込み、結果として食物連鎖の頂点に立つ人間の体内に有害物質が吸着しているプラスチックを摂取することになりますので、私たちの健康にも直接的に影響がある問題だと考えています。 </p> <p> 本年7月7日に伊豆市議長が所属する、全国市議会議長会都市問題特別委員会「海洋プラスチックをはじめとするプラスチックごみ問題に関する特別委員会」第1回委員会が開催されました。 </p> <p> 海洋プラスチック汚染、プラスチックごみ問題について、東京農工大学大学院環境資源科学科教授の高田秀重先生による、地方自治体のプラスチック対策に望むこととしての講演が行われ、プラスチックの使用削減を事業者に求める活動、プラスチックの使用削減、循環型社会を活性化させる自治体の活動、熱回収至上からの脱却、プラスチックごみ処分費、リサイクル費用を生産者に求める、市民意識の3R(削減ファースト)意識の啓発等について学びました。 </p>
	答 弁 を 求める者 市 長 教育長

<p>2. 危険空き家対策</p>	<p>伊豆市でも本年6月に、“伊豆市ゼロカーボン戦略「かけがえのない地球を守る小作戦」” 宣言を表明しました。</p> <p>プラスチック製品の適切な処理に努めるとともに脱プラスチック社会の実現を目指すためにどのような取り組みを行っていくのかお示してください。</p> <p>①家庭から排出されるプラごみの総量、及びリサイクル率 ②プラスチックごみ低減の取り組み ③プラスチックごみが海に流れないようにする取り組みとして 河川清掃・海岸清掃について ④プラスチック資源循環促進法への取り組み状況 ⑤海洋プラスチック対策についての教育委員会の取り組み</p> <p>国土交通省によると、市町村により撤去などが行われた空き家は、2021年度末時点の累計で14万2,528件と、15年度末の1万1,392件から右肩上がりに増えている事を示しています。</p> <p>平成31年3月定例会に於いて、平成27年5月に全面施行となった空き家等対策の推進に関する特別措置法後の伊豆市の危険空き家対策の進捗状況について一般質問をいたしました。</p> <p>当時の総務部長から詳細な答弁がありましたが、土肥大藪地区などの住宅密集地では今後の大規模災害を見据えると非常に心配がありますので、改めて下記項目について質問をさせていただきます。</p> <p>①把握している危険空き家と認定特定空き家の件数 ②国に合わせた5年ごとの空き家の実態調査の結果報告 ③空き家対策等協議会の危険空き家に対する協議内容 ④住宅密集地などに危険空き家を増やさないための政策的対応 ⑤財産管理人を立て解体に至った空き家の件数 ⑥空き家対策総合支援事業の活用について ⑦土地所有権の国庫への帰属に関する法律が来年の4月から段階的に施行されますがその効果についての見解 ⑧伊豆市全域を推進計画区域とした【環境】・【観光】・【防災】のバランスのとれたまちづくりである観光防災まちづくりを進めるうえでの危険空き家対策についての見解</p>	<p>市長</p>
-------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4 年 11 月 16 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 9 議員名 鈴木 正 人

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> 質疑・反対討論・賛成討論・その他()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1. 子どもたちの「生きづらさ」に向き合うために	<p>静岡県教育委員会は本年 10 月 27 日、2021(令和 3)年度に県内の公立学校が認知した「いじめ」や「不登校」に関する調査結果を公表した。</p> <p>調査結果によると、いじめの認知件数は、小学校が 1 万 5,018 件で「前年比 65%増」、中学校が 4,899 件で「前年比 87%増」と著しい増加となっている。</p> <p>この結果に県教委は、「前年控えていた行事や部活動などが徐々に再開され、児童生徒が関わる場面が増加したことが一因」としている。</p> <p>また、小中学校の不登校者数は 8,030 人で「前年比 25%増」となり、9 年連続で過去最多を更新した。特に、中学 1 年生で新たに不登校になった生徒数は、前年の 20 年度の「3.7 倍」に膨らみ、この子たちは小学 5・6 年の時にコロナの感染拡大によって、休校などの行動制限を受けた学年で、環境の変化などに戸惑う「中 1 ギャップ」が顕著に表れたと分析している。</p> <p>2011 年に滋賀県大津市で起きたいじめによる自殺事件をきっかけとして、「いじめ防止対策推進法」が 2013 年に制定されてから今年で「10 年目」。</p> <p>二度と同様の悲劇を起こさぬよう、そして子どもたちに等しく与えられた教育現場において「生きづらさ」を抱える子どもたちに支えの手が届くよう、私たち大人は改めて真剣に考えなければならない必要性を感じる。</p>	市 長 教 育 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	<p>そこで以下伺う。</p> <p>① 2021(令和3)年度において、伊豆市の児童生徒のいじめの認知件数、不登校者数はそれぞれ如何だったか。また、対前年(2020年度)比については如何か。</p> <p>② 調査開始以来、いじめや不登校の発生状況に変化や特異な傾向はないか。</p> <p>③ いじめの発見のきっかけは、校内アンケートや本人からの訴えが多く認知件数全体の半分以上を占めていると県教委は分析しているが、伊豆市においては如何か。</p> <p>④ 発見した後の対応状況は如何か。</p> <p>⑤ 不登校の児童生徒に対して、適応指導教室(いごこち)を設置しているが、児童生徒の利用状況は如何か。</p> <p>⑥ 令和2年度に基本設計まで完了している天城小学校近隣の複合施設だが、改めて設置目的を伺う。また、今後の当該事業の進捗について、総合計画や都市計画マスタープラン等の兼ね合いから伺う。</p> <p>⑦ これらの課題を、教育部局のみならず市長部局も共有して解消していく必要があると考えるがその見解と具体策を伺う。</p>	

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
2. 大規模太陽光発電施設(メガソーラー)について	<p>報道によると、市は11月14日、中伊豆上白岩地区などで計画されている大規模太陽光発電施設(メガソーラー)に関して、伊豆市自然環境等と再生可能エネルギー発電事業との調和に関する条例に基づく事業者からの届け出を受理したことを明らかにし、今後は「60日以内」を目途に当該条例に従って書類の審査を進め、同意か不同意かを判断するとしている。</p> <p>そこで以下伺う。</p> <p>① 申請した事業者の当該施設の計画概要を伺う。</p> <p>② 今後の書類審査の流れを説明願う。</p> <p>③ 定例会見のなかで市長は、「伊豆半島全体が観光地で環境保全、住民の不安の面からも、必ずしも市長としては歓迎はしない案件。しかし関係法令、市の条例を確認しても市長として拒否権はない。届け出を受理せざるを得ない。」と状況を説明した。</p> <p>今後、書類審査を進めていき最終判断がされる前のこの発言に違和感を感じる。</p> <p>改めて、この発言について解説願う。</p>	市 長

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 4年 11月 16日

伊豆市議会議長 様

議席番号 11 議員名 波多野 靖明

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・質疑・反対討論・賛成討論・その他()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
修善寺ニュータウン 地区について	<p>皆様、ご承知の通り我が国三大台風と言われるものに室戸台風、伊勢湾台風、狩野川台風がございます。その中の狩野川台風により甚大な被害を受けた旧修善寺町の災害復旧・復興のための財源として町有地の売却が行なわれ、なおかつ将来にわたって自主財源確保の為、大規模開発を計画し造成された住宅地であります。</p> <p>昭和 50 年都市計画法により市街化区域の指定を受け周辺の山林原野の中で唯一、住宅建設が可能な区域となりました。各種の制限はあるものの区域内はどこでも住宅建設が可能となりました。一方、地目は山林であれ原野であっても、宅地並み課税を課せられ約 50 年が経過しようとしています。</p> <p>私はニュータウン地区は旧修善寺町、伊豆市の財政面でいささかの貢献はしたと考えております。そして、平成 29 年 3 月 31 日に伊豆市旧修善寺町区域において市街化調整区域が撤廃され、伊豆市内は農地法等、関係法令の手続きを踏めば一部の例外を除き、全市、住宅等の建築が可能となりました。その建ぺい率、容積率はニュータウン地区より優遇され且つ高さ制限等もありません。</p> <p>①ニュータウン地区は古くから都市計画法の適用を受け宅地並み課税を課せられているのは、いかがなものでしょうか。このまま第一種低層住居専用地域を続けるならそのメリットは何があるのでしょうか。</p>	市 長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>今後は、第一種低層住居専用地域を辞退するか存続するの か判断に苦しむところです。50年を経過し今更新興住宅地と いうには歯がゆい気も致しますが、周辺の数百年を経過した 地区と比較すると、民間だけで造成された区域はまだ未 整備の点が多々あります。</p> <p>以上、申し上げた点を考慮し住民の自助努力と合せて地区 の環境整備について伺います。</p> <p>②行政区すなわち学区の変更について伺います。</p> <p>ニュータウン地区は、当初別荘地としての色合いが強く、 行政としての理由は不明ですが、修善寺小学校区に定めたと 思いますが、50年を経過し別荘地から定住者の街に変わりつ つあります。戸数700戸のうち350戸を定住者が占めるよう になりました。</p> <p>定住者が増えると必然的に児童も増えます。ニュータウン 地区はその土地の大字が示すとおり、圧倒的に熊坂小学区で あるにも関わらず、修善寺小学区と規定されているため、熊 坂小に通学することは学区外通学となり通学費は全額支給 されませんでした。数年前、教育委員会の格段のご配慮に より、現在は他地区と同様支給されていると聞いておりま す。</p> <p>一方、学校が同じで経済圏も同じようだと必然的に地域の 交流も多くなります。コロナ禍のため、一時中断してしま いますが熊坂区とは相互の地区の祭典イベントに招き招かれる 関係に発展しており、子供会等に於いては熊坂の神社の稚児 行列にも参加させて頂いております。また、熊坂小の後援会 の一員として学校関係の諸行事には参加させて頂いており ます。</p> <p>一方、修善寺小学区であるため当自治会の会長は修善寺小 学区の区長会に出席しておりますが、歴代自治会長はだれも 知人がいないため会話にも加われなかったと聞いたことも ございます。</p>	

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	<p>また、熊坂小の行事には参加しますが、熊坂小学区区長会には出席していないため、学校以外の問題には参加することを遠慮しているのが実状です。</p> <p>当地区は行政区分を熊坂小学区とするのが本来自然の形だと考えられます。行政区の関係は学校、消防団等多岐にわたるかとも考えられますが変更の件は可能でしょうか。</p> <p>なお、私が本日このテーマで質問することは、歴代自治会長に確認済みであることも申し添えさせていただきます。</p>	

議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和4年11月14日

伊豆市議会議長 様

議席番号 7 議員名 杉 山 武 司

No. 1

発言の種別 (○で囲む) <u>一般質問</u> ・ 質疑 ・ 反対討論 ・ 賛成討論 ・ その他 ()		
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求 め る 者
件 名	内 容	
1 市民サービス向上を目的の未来のまちづくり	<p>近年目覚ましい社会構造の変化や情報技術の発達など、自治体を取り巻く環境は過去とは大きく異なってきました。自治体の業務をこなしていく上でも、従来型の「ヒト・モノ・カネ」を軸とした運用が成り立たなくなっている時代となっています。少子高齢化による人材不足や市税収入の減少は、自治体の本来果たすべき仕事を阻む要因でもあります。</p> <p>一方、住民ニーズの多様化によって行政の仕事は複雑化し、人手不足が深刻になる中、業務は多分野にわたり、大量情報が行き来する状況下にあって社会変化が加速、自治体の多種多様な業務にもスピード感が求められているのが、現在の自治体の置かれている現状であると考えます。</p> <p>多くの自治体でその現状に危機感を以て対応を始めています。伊豆市もその自治体のひとつであると思います。</p> <p>そのような状況下、その対応策として令和4年3月に伊豆市DX推進方針が示されました。その中で3つの方針が示されています。</p> <p>方針1 市民サービスの利便性の向上</p> <p>方針2 行政運営の生産性の向上</p> <p>方針3 デジタル社会を実現するための環境整備</p>	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>今後はこうした業務改善を行うことにより、自治体DXは、今後、飛躍的な進展を遂げるものと思います。</p> <p>すでにマイナンバーカードにより、住民票の写しなど市の各種証明書がコンビニなどで取得できるようになりました。</p> <p>伊豆市DX推進方針の3つの方針の一つである方針1の市民サービスの利便性向上に絞って以下の質問をいたします。</p> <p>① 自治体DXは市民と行政の最も身近な接点である窓口業務に市民側から見た場合にどのような変化をもたらすことができるのか、ご教示願います。</p> <p>② 伊豆市DX推進方針の中で、行政手続きの簡素化、オンライン化を図り、窓口業務の根本的な見直しを行うとしていますが、何をどう見直すのか、計画も含めて具体的な説明を求めます。</p> <p>③ 今後訪れる自治体の「ニーズが増える業務、職員の減少」といった長期的傾向に対応しながら、住民サービスの向上を図る取組が多くの自治体ですでに進められています。伊豆市としてそのことをどのように捉え進めていくのか、ご教示願います。</p> <p>④ 多くの市町の先行事例に携わり実績を上げ、真に「市民目線の窓口システム」の開発事業者も多数あるのも事実です。先行事例の自治体を参考にするとのお考えはお持ちですか。</p>	

件名	内容	答弁を 求める者
2 教員不足への対応について	<p>教育現場の現状と課題を鑑みた時、社会構造の変化に伴うグローバル化や情報化、少子高齢化など、複雑化する諸課題への対応が必要不可欠となっています。学校教育においても、求められる教員像の変化への対応が必要です。</p> <p>そのためには、子供たちがこれから先の時代を生き抜くための力を育成すると同時に、これからの学校は、基礎的・基本的な知識・技能に加え、思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の形成等を重視することが必要だと考えます。</p> <p>今後は、このような学びを支える教員の養成と、学び続ける教員像の確立が求められています。その一方、いじめ・不登校への対応、特別支援教育の充実、ICTの活用などへの対応も必要で、教員の多忙化が顕在化しているのが実情です。</p> <p>そのような中であって、少子高齢化が進み、子供の数も年々減っている現代の我が国では学校の教員も不足しているのが現実です。子供が少なくなれば教員の数は少なくてもいいと思われがちですが、教員志望者の減少、産休・育休の取得や病欠など複雑な要因によって、地域を問わず全国で教員不足となっています。</p> <p>教員不足は学校の働く現場のみならず、子供たちの学習や道徳・芸術などの社会的価値をもった感情ないし意志を養うための教育である情操教育にも影を落とす要因でもあります。</p> <p>この状況を改善するためには、教員の働き方改革にも真摯に向き合い、教員の養成・採用・入職後など、それぞれの対策が必要ですが、市町の教育委員会の取組には限度がありますが、黙認は抱きません。結果として、教員不足の不利益は全て子供たちに降りかかってきます。</p> <p>以上を鑑み、以下の質問をいたします。</p>	教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求 め る 者
	<p>① 教員不足に関して、伊豆市の教育現場の現状をご教示願います。</p> <p>② 教員の多忙すぎる業務、倍増する病気による休職や産休・育休への対応、そして低下が進む教員の採用倍率、このことが今後子供たちにどのような影響を及ぼすとお考えですか。</p> <p>③ 産休や育休、病欠の教員が増えると、当然教員の数は足りなくなります。小学校では、教員不足により本来は授業を担当しない教員、または管理職が教壇に立つケースも発生しています。伊豆市ではこのような場合、どのような対処を講じているのかご教示願います。</p> <p>④ 教員の働き方改革にいままでどのように取り組んできたのか、また今後どのような改善が必要なのか説明願います。</p>	

